

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人清友会		
事業所名	グループホームにこやか 天神		
所在地	愛知県犬山市字裏之門45番地		
自己評価作成日	平成27年2月24日	評価結果市町村受理日	平成27年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クリニック併設の為、医療面でのサポートは充実している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2393400128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、高齢者の療養病床も併設した医療機関の中に開設されているため、医療的な支援が必要な場合においても柔軟な対応が可能である。夜間の対応についても、医療機関内に看護師が夜勤で勤務していることもあり、ホームの夜勤職員への指示等が行える体制でもある。ホームに入居している利用者の中には、入居前から母体の医療機関をかかりつけ医としていた方もおり、ホームが利用者にとっても馴染みの場所でもある。運営法人の「絆 人と人とのつながりを大切」にした理念をホームの基本理念としており、地域の方との交流や家族との関係づくりに取り組んでいる。地域の方とは、近隣にある児童センターへの訪問や近隣の美容院に出かけて交流の機会をつくっている。家族とは、ホームの行事を通じた交流を行いながら、要望等の把握と反映に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年3月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	時折、理念にそぐわない態度で接してしまうことがある。 ある程度はできていると思う。	法人の基本理念をホームの理念としており、スタッフルームにも掲示しており、職員への周知に取り組んでいる。職員には、理念にある人と人とのつながりを大切にされた支援に取り組むように伝えられている。	職員への理念の浸透と実践が充分ではない点が否めない。理念を基本にしたホームの具体的な取り組みを考える等、次年度に向けた新たな取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	あまり出来ていない。まだまだ地域の一員としての交流がなされていない。 ある程度はできていると思う。	ホームの近隣にある児童センターを通じた交流が行われている他、保育園との交流の機会もつくられている。また、ボランティアの方がホームに訪問する交流も行われたり、地域の美容院の利用も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	出来ていない。 あまりできていないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来る所は行っている。行えている。	会議の際には、運営状況を分かりやすく資料にまとめて報告しており、ホームへの理解を深めてもらっている。また、会議には、母体医療機関の医師でもある法人代表者も出席しており、医療面に関する助言等にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談員、管理者を通じて連携は取れている。	管理者は、運営推進会議の案内等を直接担当窓口に行ったり、市の介護相談員の訪問が得られていることで、定期的な情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターとの情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	出来る範囲で取り組んでいる。ユニット入口は入居者の安全面を考慮し施錠する必要がある。それ以外は無し。	ホームは、ユニット毎に構造が異なっており、階段から出ることができるため、ユニット入り口の施錠を行うこともあるが、職員による見守りを行っている。また、勉強会等の機会をつくり、振り返りの機会もついている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	努めている。話しを聞いてもらったり、対応を代わってもらったり、お互いが落ち着いて行える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	出来ていない。まだ十分に把握、理解出来ていない。 学ぶ機会を持つようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行えている。 管理者が実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	行えている。 スタッフ間や家族との間で可能な限り情報を共有し管理者より発信している。	家族とは、ホームの行事を通じた交流を行っており、管理者により意見等の把握が行われている。家族による料金等の支払いを病院の窓口としていることで、母体の医療機関にも意見等を言うことが可能である。なお、定期的なホーム便りは今後のテーマでもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行えている。 分かりません。	現状、ホーム職員との定期的な会議等が難しい状況でもあり、今後の職員体制の変更等も合わせて、テーマでもある。関連事業所とつくっている安全委員会が幹部会議を兼ねた存在になっている。	今後に向けて、職員体制を整えながら、申し送りの利用して話し合いの時間を設けたり、ユニット毎で職員で話し合える機会をつくる取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努力はされていると思います。 給与水準ややりがいには疑問がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会により、改めてケアの再確認が出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	講習会等での同業者との交わりより刺激になっている。 個人的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の話を聞き、ニーズの把握に努めている。情報を把握しながら本人との関わり方を見つけていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	傾聴し不安を軽くしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	行えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	築けるようにコミュニケーションをとっている。 傾聴している。 食器を洗ったり、拭いたり、掃除等の日常生活を手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	心配を掛けないように、ご本人の様子を伝えている。お互いのかけ橋とんり、また顔を出して頂ける様、声掛けを行う。面会に来られる家族と可能な限り話すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問しやすい雰囲気作りに努めている。 面会に来られた時に感謝とまた来て頂ける様声掛けを行う。	母体の医療機関が長年地域で医療を行ってきたこともあり、知人が病院に受診した際にホームに寄ってくる等、交流を継続している方もいる。また、近隣の美容院の方と馴染みの関係の方もおり、ホームの支援で美容院まで出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の皆さんがフロアで一緒に過ごしやすい環境作りに努めている。 レクリエーションを通して少しずつ参加し、他者との関わりを持てる様支援。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	行えていない。クリニックで顔をお見かけした時などお互いに声掛けし話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めているが、全てがご本人の思い通りには出来ていない。本人は自宅に帰る事を望んでいる。しかし、それは無理なのでここでの良い所を見つけて頂き、ここを第2の自宅として暮らしていける様に支援している。	職員間で情報を共有することができるように、ホームでは、利用者毎の申し送りノートを作成しており、利用者の意向等の把握と共有につながるよう取り組んでいる。なお、カンファレンス等の話し合いについては、今後のテーマでもある。	今後に向け、一部、職員間で担当割りを行いながら、ユニット毎で話し合いの時間を設ける等、利用者の言動等からより良い支援につながるような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族にも以前の生活を伺いながら把握に努めている。行えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ることは行っている。日々の中で気づき等スタッフで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフとの情報交換にて日々変化する事に注意している。	介護計画については、基本6か月毎に見直されており、計画作成担当者が中心になり、毎月のチェックとモニタリングにつなげている。また、家族との話し合いの機会をつくっており、計画内容の見直しにつなげている。	現場の職員に、利用者についての基本的な支援方針が共有できるように、介護計画の内容を分かりやすくする工夫に期待したい。その上で、日常的な記録を通じたチェックにつながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録、情報の共有が出来るようスタッフ同士話し合っている。行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	あまり行えていない。行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	あまり出来ていない。 ボランティアの方に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している。 出来ている。 往診がある。	母体の医療機関の中に開設されているため、利用者毎の医療面での支援が行われている。家族による受診支援の際には、ホームからの情報提供が行われている。また、母体の看護師との連携にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。 気づき変化は報告し、指示を仰ぐ様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。 努力して行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	まだ十分ではないが、今できる事をしっかりと行うように集中している状況。	母体の医療機関とも連携を深めながら、ホームでの看取り支援も行われているが、母体には療養型の医療施設も併設されているため、医療機関への移行も行われている。また、看護師による職員への指導や管理者による夜間のフォローも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全てのスタッフに行えていない。 まだ十分に対応力は身に付いていないので今より少しでも出来るように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	築いていない。 地域との協力体制は今後の課題。	避難訓練の際には、建物の3階であることを考慮した避難誘導等の確認が行われており、通報装置の使用に関する確認も行われている。なお、地域の方との協力関係や関係部署とも連携した備蓄等については今後のテーマでもある。	地域密着型事業所でもあるため、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。また、関係部署とも連携して、必要な備蓄品の確認にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	心掛けて声掛けを行っている。 声掛けする時はその方の側で他の方に聞こえない様配慮。	利用者への尊厳のある対応については一人ひとりに認識が異なっていることもあり、気になった際には、管理者から注意を促すように取り組んでいる。また、内部での勉強会等、接遇面での振り返りの機会もつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り自己決定が出来るようにしている。選択して行える様声掛けし、無理に押し付けない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフの都合で動いてしまっていることがある。 出来るだけ希望に添うよう支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している。 声掛けしながら一緒に選択する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー作りに利用者様の意見も参考にしている。準備や片付けは出来る範囲で行っている。 手伝いが出来ることは参加して頂く。	食事については、朝と夕はホーム内で調理し、昼は、併設の厨房から提供している。身体状態に合わせたミキサーや刻み等の対応は、ホーム職員により行われている。また、時には、おやつ作りや行事食の楽しみも行われている。	感染症予防もあり、現状、利用者が食事作りや片付けに参加する機会がほとんどない状況である。医療的な助言も得ながら、利用者の活動面の支援から、少しでも参加できる機会に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を把握しながら声掛けしている。 体調等の様子を見ながら声掛けした変化を確認。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	行っている。 自己、介助の確認。拒否強い場合は様子見。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	行っている。 体調、タイミングに気を付け支援。	現状、おむつでの排泄の方もいるが、可能な限り、トイレでの排泄に取り組んでおり、医療面での連携も含め、排泄状態の改善につなげている。職員間で申し送りの時間を利用して排泄に関する情報を共有しながら、適切な声かけ等につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる。 食事、水分量に気を付けトイレ誘導の時間を注意する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	出来ていない。 一人ひとりの状況に合わせて入浴のながい人、そうでない人に合わせコミュニケーションを取り支援する。	ホームでの入浴は週4日体制となっており、時間は、午前と午後を実施している。ユニットにより、特殊浴槽が設置されているため、重度の方の入浴も可能である。また、入浴剤を使用したり、季節の柚子湯の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している。 時にはアロマ使用し、居宅で話をし不安な気持ちを軽減する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ては理解していないが、すぐに情報を得ることが出来るようにしている。 情報共有をし体調等の変化に注意し服薬時の読み上げ確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各個人に合わせてレクリエーションを行っている。 一人ひとりの出来ること行ってくださった事に感謝の言葉を伝える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来ていない。 出来るだけ希望に添えるように支援。 レクでの外出はあるが買い物等への参加は出来ていない。	利用者の外出の機会が限られ、季節に合わせた外出等も充分でない現状もあるが、状況を見て、外出の機会をつくるように取り組んでいる。今後に向けて、グループでの外出等に取り組んでいきたい意向でもある。	ホームが建物の中にあるという制約もあるため、今後に向け、職員体制を整えながらグループでの外出の機会を増やす等、利用者が外に出る機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来ていない。 物盗られ妄想等あるので注意しながら支援。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人的に携帯電話を持っている方もいる。 内容により家族への連絡を行っている。 本人の希望に添える支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着ける環境作りに努めている。 年間行事、季節感、外の移り変わりの話しによるコミュニケーション。	ホームは、元の施設を改装したユニットと、新たに建て増したユニットで構成されている。そのため、リビング等の共用空間は、ユニット毎に異なっており、雰囲気や広さも異なっている。また、飾り付け等については、ユニットの雰囲気にも合わせて行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア、居室の行動の制限は行っていない。 居心地のいい場所の提供、確認。 無理な場合は話しをし、理解して頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	行っている。 物の移動は本人様と話しをし理解して行う。 しかし、すぐに被害妄想的になられる方もいる。	居室の雰囲気もユニット毎に異なっているが、ゆったりした広さを確保している点は共通している。居室内には、利用者により好みの家具類の持ち込みが行われており、その方に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	行っている。 目配り、気配りに気を付ける様支援。		